

京都のランドマーク「京都タワー」



京都の風景



飛躍へ向けた次の「一手」

—京滋の有力企業トップインタビュー—

2024年がスタートした。今年の干支は「辰（たつ）年」。陽の気が動いて、万物が振動するので、活力旺盛になって大きく成長し、形が整う年と言われる。実際、進取の精神を持つ京滋地域の企業業績は、規模、業種によって多少の温度差はあるものの堅調で、成長に向けた投資を加速している。新型コロナウイルス禍の収束で経済・社会活動の正常化が進み、日本では40年ぶりの物価上昇と賃上げへの期待などで、デフレからの脱却がようやく視野に入ってきた。一方、年明け早々に起きた能登半島地震、東京・羽田空港での航空機衝突事故と、波乱の幕開けとなったことは否めない。人手不足や原材料価格の高止まりに加え、世界経済の分断、中国景気の減速、複数の戦争といったリスクもある中、注目の京滋企業トップに、飛躍へ向けた次なる一手を語ってもらった。



片岡製作所会長

片岡 宏二氏

「電気自動車（EV）用バッテリー工場への投資が世界各国で加速しています。世界シェア首位の二次電池検査システムは世界から多くの引き合いがある。過去最大規模の同システム納入が近く始まるので、ロットも大型化順即で工場だけでは厳しい。当社近くで工場を新たに借りて生産ラインを本設け、今春稼働させる。既存と



生産増強で需要対応

世界から多くの引き合い

「世界で電池検査が不足している。当社のように最適な検査工程のレイアウト設計から能力計算、ユーティリティ全を担い、対応できる企業はそう多くはない。この点と

合わせ、3ラインで当分の需要に対応。同システム事業の売上高は約60億円規模。生産増強で約3倍の200億円規模まで対応可能になる。人材育成も重要だ。世界で電池検査者が不足している。当社が培った技術者を優先して中国に輸出する。当社が培った技術者を優先して中国に輸出する。当社が培った技術者を優先して中国に輸出する。

経験、実績、安全性高め、高く評価してもらっている。人材確保は最優先で行っているがより一層力を入れ、新卒も中途採用を増やしていく。一次世代太陽電池として注目されるペロブスカイト太陽電池向けで、量産用装置の開発に取り組みしています。同電池は日本発の技術。量産で先行する中国に負けない。当社が培った太陽電池用レーザーパターニング装置の技術を用いた研究開発向け装置を展開する。量産用は本社近くに新設予定の自前工場を生産する計画だ。一方、レーザー加工システム事業は半導体業界向けだが好調で生産性に優れた新鋭機でさらに成長させる。2024年1月期は過去最悪だった18年1月期に並ぶ売上高の見込み。25年1月期はさらに伸ばす。」